

住吉神社

住吉神社は、1830 年に千砂子防波堤の鎮守として創建された。

住吉神社には、航海や海にゆかりのある住吉三神と呼ばれる三柱の神々が祀られている。住吉三神はオリオン座の三大星であり、航海に関係する星であることから、航海に関係しているのではないかとされている。

この神社を建てるために、広島藩の勘定奉行が鴻池善右衛門（1806～1851）に資金を募った。善右衛門は、後に日本最大級の銀行である三菱 UFJ 銀行の元となった銀行を設立した大阪の豪商の 9 代目当主だった。総監は善右衛門が寺院の建設に貢献することをあまり期待していなかったが、善右衛門はたまたま 25 歳の厄年だった。人の一生のうちのある一定期間（厄年）は、個人的な災難に遭う可能性が高いという言い伝えがあるが、神社やお寺への参拝など、さまざまな慶事を行うことで、災難を防ぐことができるとされている。善右衛門は、その葉除けを願って住吉神社の建立のために寄進したとされている。

住吉神社の本殿は全国の住吉神社の総本山である大阪の住吉大社の本殿を忠実に半分の大きさで再現したものである。本殿の構成部品は大阪で作られ、後に御手洗で組み立てられた。大阪の本殿も御手洗の本殿も「住吉造り」と呼ばれる独特の造りで、平屋建ての屋根と周囲の塀が特徴である。

境内の玉垣には、御手洗が港町として全国的に影響を持っていたことを示すように、創建時に寄進した全国の商人の名前が刻まれている。このほかにも、地元の茶屋で働いていたお茶屋の花魁などの寄進者もいます。

1991 年（平成 3 年）の台風ミレーユで住吉神社の拝殿は全壊したが、その後再建された。しかし、本殿は台風の影響をほとんど受けずに残っており、1996 年には広島県の重要文化財に指定された。